

リヨン第三大学（フランス）

フランスでの留学生活が無事に満了いたしました。この学びや感謝をこれからの活動に活かしたいです。

友人が続々と帰国していくのを見ていましたが、いざ自分の番となると寂しいものだと改めて思いました。日本に帰国してから、まだ友人と定期的にメッセージをしたり、日本に留学しにフランスから来た友達と会ったりしています。日本にいつか来てねと約束した友人も多く、今後も彼らと会えると思うとあまり寂しくはないです。

中東工科大学（トルコ）

今月はトルコでの留学生活最後の月でした。この約10ヶ月間を振り返ると、辛かったこと、面白かったこと、ハラハラドキドキしたことなどたくさんあり、様々な経験を経ることができた濃い10ヶ月だったと思います。また、トルコでの生活を振り返ると共に、これから始まる日本での再びの生活にわくわくする1ヶ月でもありました。

よく「海外いくと価値観が変わる」といいますが、私の場合はそれが本当で良くも悪くも価値観がぶっ飛ばされるような10ヶ月でした。トルコ人、これまでに会った留学生との交流の中で日本の「通常」は海外の「異常」、逆もまたしかりなのだと感じました。また、「日本」と一括りにすることも危険で、1億人以上の「日本人」がいるので多種多様な考えがあることを再認識することもできました。頭で理解するのと、実際に体験するのでは、質が全く異なるので、実際に体験することができてとても良かったと思います。

淑明女子大学校（韓国）

帰国三日前に、約8ヵ月通い続けたバスケット部の最後の練習日を迎えました。部員のみんなが手紙とドーナツを用意してサプライズしてくれました。予想してなかったのでびっくりしましたが、とても嬉しかったですし、今までの日々がフラッシュバックして泣きそうでした。メンバー皆が本当に優しくて面白い子達だったので、最初は韓国語に不安もありましたが、ストレスなく続けることができ、本当に感謝しています。合宿やリーグ優勝など、この部活に入っていなかったらできていなかった経験をたくさんさせてもらい、入部してよかったと心の底から感じています。

マレーシア科学大学（マレーシア）

ペナンでの生活も残りわずかとなりました。友達と食べる学食や帰り道などふとした瞬間が思い出になるのだろうと、日々思いながら生活しています。授業も全て終了し、あとは3週間後にあるテストを待つのみです。

アメリカス・プエブラ大学（メキシコ）

私のお気に入りの時間は、市場での買い物の時間です。メキシコで食品を買うにはスーパーマーケットに並んで市場も一般的です。スーパーマーケットに比べて種類が豊富で、新鮮な野菜やフルーツが手に入ります。基本的に量り売りで、自分の好きな量を購入することができます。日本では見かけない珍しい商品も多く、とても楽しいです。値段も日本に比べるとだいぶ安いです。例えば0.5kgのイチゴは約350円と破格です。帰国したらメキシコの野菜が恋しくなりそうです。メキシコの野菜の販売方式は多くの野菜がビニールで包装されている日本と比べるとより開放的です。私の卒論のテーマは日本とメキシコの野菜の包装の比較研究なので日常的に色々と考察をしながら過ごしています。



フライブルク大学（ドイツ）

ドイツに来て、最も大きなカルチャーショックといえるのは、エアコンがないことです。学校も図書館も、お店も、寮にもどこにもエアコンがありません。友人によると、ドイツだけではなく、ドイツから北の国は基本的にエアコンがないようです。しかし、ドイツも40度まで気温が上がります。では、ドイツの皆さんはどうやって暑さをしのいでいるのでしょうか。ここで一番驚いたのがみんな自然を上手く利用していることです。例えば、大学の近くには少し大きな川、DREISAMが流れています。また、BÄCHLEと呼ばれる、小さな小川が市内のあちこちに流れています。みんな川に足を半分いれて涼みながらREADINGやGROUP WORKをしたりしています。エアコンを使えば確かに簡単に涼むことができますが、自然の力を使ってこんなに簡単に涼むことができることには全く気づきませんでした。最初は本当に体が慣れなくて、夜もまともに寝れませんでした。今はクーラーがなくても心地よく生活をする事ができています。日本は湿度があるので同じ生活スタイルをするのは危険だと思います。しかし、工夫次第でエアコンの使用量を下げることができるのかもしれないと感じました。

